

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	大分県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	中津市立鶴居小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	3	3	2	2	2	16	25
児童数	73	79	93	90	73	72	6	486	

研究の概要

1. 研究主題

子どもとひらく算数科の授業づくり ～『わかる・学ぶ』喜びが持てる少人数・TT指導の在り方～
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

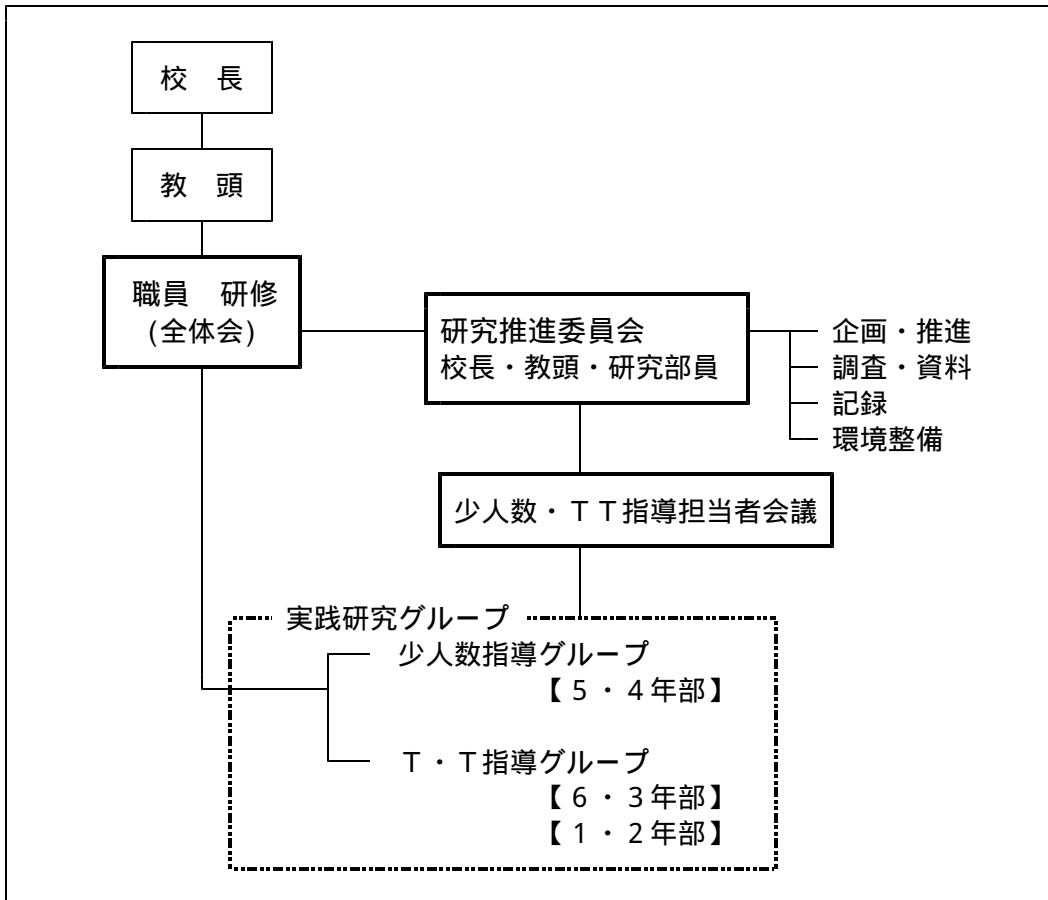
全学年（1～6年） 算数科 ・3年前、算数科の個人差が大きく、基礎・基本の定着の不足が問題とされた。 そこで、算数科を重点教科として計算技能の向上（チャレンジタイム）、自主学習力の伸長（マイスタディタイム）、授業改善（少人数指導・TT指導）などに取り組んできた。昨年度までの成果として、算数が好きになった子、勉強がわかりやすくなった子の増加、わからないときに教師に尋ねる子、自分から意見や考えを発表する子の増加（子どものアンケート調査より）の様子が見られた。教師側からも一人ひとりに目が届くようになった意欲的な学習態度が見られるなどの改善の様子が出された。しかし、わからな いけど、尋ねないという子ども（17%）・発表しない、あまりしない子ども（43%）の存在、また、教師側からも 少人数指導・TT指導の指導 法の改善 より計画的、効率的な算数科の授業の改善 が指摘された。そこで、今までの取り組みを発展させながら、少人数指導・TT指導を有効に 用いての、 子どもたちがわかる、学ぶ喜びが持てる算数科の授業をつくるこ とに取り組 性を持ち、 こんでいくこととした。また、算数科は系統性を積み重ねていく特 性を持ち、 全学年での取り組みが不可欠であると考えた
--

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年度	<p>テーマ 子どもとひらく算数科の授業づくり ～『わかる・学ぶ』喜びが持てる少人数・TT指導の在り方～</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none">・個の主体的な学習、確かな学力を身につけるために、個に応じたきめ細かな支援がおこなえる学習過程の工夫に取り組む・単元の指導計画や学習内容に応じた学習の形態や指導の形態の工夫に取り組む・学習のねらいや学習場面に応じた支援、個のつまずきに応じた支援などきめ細かな支援の工夫に取り組む <p>研究の内容・方法</p> <p>単元の指導計画の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">・0時、スタディタイム（知識理解の定着）・マイスタディタイム（知識理解の定着、自己学習力の伸長）を組み込んだ単元の指導計画の改善 <p>学習のねらいや単元の指導計画に応じた指導の形態や指導方法の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">・少人数指導、TT指導のよさを生かした指導の形態の在り方・学ぶ力を育む授業過程の明確化 <p>学習の場面、個に応じた支援の工夫</p> <ul style="list-style-type: none">・少人数、TTの指導を生かした学習場面に応じた支援の工夫・子どもたちの様子に応じた個への支援の工夫 <p>算数科の目標に応じた評価規準・規準の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・評価規準を位置づけた指導計画の作成・評価規準・規準の見直し <p>スキルタイムの改善</p> <ul style="list-style-type: none">・チャレンジタイム（計算技能の向上）の改善
----------------	---

平成 16 年度	<p>テーマ 子どもとひらく算数科の授業づくり ～『わかる・学ぶ』喜びが持てる少人数・TT指導の在り方～</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎・基本の定着や学ぶ力の向上が図れるように、学習内容や子どもの実態に応じた単元の指導計画、学習過程を工夫した授業の構想と実践・子どもたちがわかる、できる喜びが持て、主体的に学習に取り組むように、子どもたちの自由な操作、思考を助ける教材・教具の工夫、提示や、学習の過程に応じた支援、個に応じた支援の実践 <p>研究の内容・方法</p> <p>確かな学力の定着を図る単元の指導計画、授業過程の改善</p> <p>学習のねらいや単元の指導計画に応じた指導の形態や指導方法の改善</p> <p>学習の場面、個に応じた支援を生かした授業の実践と改善</p> <p>評価規準の見直しと、評価結果を生かした授業の改善</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

単元の指導計画の工夫

- ・スタディタイム（学習プリント）を単元の終了時に設定し、それまでの学習内容の知識・理解の定着とつまづきを見つけ、解消するように取り組み、成果が出ている学年がでている
 - ・マイスタディタイム（コース別学習プリント）を単元終了時に設定し、学習内容の定着問題と発展的な問題のコースに子どもたちが自らコースを選び、学習を進めるように取り組んできた。今回子どもたちの様子から各コースの問題内容の見直しと指導方法の改善を行い、81%の子どもが力がついたと感じている
 - ・単元の始めに、「0時」を設定し、本単元に関わる既習の学習内容の振り返りをし、つまづきを解消してから、本単元の学習に取り組むようにした。また、単元の途中にスタディタイム、終わりにマイスタディタイムを位置づけることで、子どもたちの知識理解の定着がより図れるようになってきている
- 学習のねらいや単元の指導計画に応じた指導の形態や指導方法の工夫
- ・少人数指導では、単元の学習内容に応じてコース別学習、合同の一斉学習（T T指導）などを取り入れた指導計画の工夫で成果が見られた
 - ・授業研究を通して、子どもたちの学習の活動を【問題をつかむ】【自分の考えを持つ】【意見を出し合う・聞き合う】【解決する】【深める】の場面に明確化したことで、教師が場面に応じた活動の工夫や指導の工夫をよりきめ細かに取り組むようになった
- 学習の場面、個に応じた支援の工夫
- ・前述の各授業場面に応じた支援や個に応じた支援について、その支援の趣旨（ねらい）や具体的な方法が、授業研究を通して明らかになってきた
 - ・支援を生かすための教師の活動、特にT1、T2の連携に対する意識が強くなってきた
- スキルタイムの改善
- ・チャレンジタイム（計算技能の向上）の実施計画を作成し、実施方法や評価方法を改善し、取り組んだ結果、80%の子どもたちが計算力がついたと感じている

【子どもたちに対する意識調査：算数についてどう思っていますか（%）】

年 度	大好き	好き	どちらでもない	少し嫌い	嫌い
2002	34	27	18	13	8
2003	40	31	16	9	4

【5年生算数科の全国学力検査より：領域別の全国比の比較】

実施月	数と計算	量と測定	図形	数量関係
5月	90	82	100	86
11月	118	106	109	120

2. 今後の課題

- ・ 2月にCRT学力診断テストを予定しているので、データが出たら分析を行い、来年度の指導に生かしていく
- ・ 評価規準を含んだ指導計画を作成したが、まだ十分に授業の改善に活用されていない。今後、CRT学力診断テストの評価も参考にして、評価から授業の改善を図っていきたい
- ・ 0時、スタディタイム、マイスタディタイムの学習内容、指導方法、有効な支援などの改善の取り組みを継続していく
- ・ 各授業場面に応じた支援、個に応じた支援などよりきめ細かな支援を取り入れた授業の改善とその支援を生かすTT指導の在り方を授業研究で深めていく

学力等把握のための学校としての取り組み

学期ごとの全校児童を対象とした算数科及び関連した取り組みへの意識調査(アンケート)の実施

4月のNRT学力診断テストによる子どもたちの相対的な算数科の学力の把握

2月のCRT学力診断テストによる子どもたちの算数科の到達度の把握

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

学校間連携推進地域連絡会にて研究の方向を発表

2004年11月に、研究の成果を発表するために、学力向上フロンティアスクール公開実践研究会を開催予定

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無